

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

April 2019 vol.60

April						
S	M	T	W	T	F	S
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

◆ 犬山城

所在地：犬山市犬山北古券

交通：名鉄犬山線「犬山」駅 北西 約 1.3km

犬山城は天守が国宝指定された全国5つの城のうちのひとつで、日本100名城にも選ばれる名跡です。天文6(1537)年、織田信長の叔父の織田信康が木之下城から城郭を移して築いたのが始まりと言われ、戦国時代には城主がめまぐるしく入れ替わりますが、江戸時代になると尾張藩主徳川義直付家老の成瀬正成が拝領し、以後、幕末まで成瀬家が領主を務めます。正成の頃に改良工事が行われ、現在の天守の姿になったと言われています。その後、廃藩置県により愛知県の所有になり、明治24(1891)年には濃尾地震が襲い、城は甚大な被害を受けます。復興のため、明治28年に修理を条件として県から成瀬家に譲与され、成瀬家と犬山町民が義援金を募り、修復が行われています。

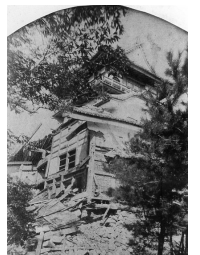
濃尾地震での犬山城の被害について、史誌には「城内の各石崖、及び櫓跡の石畳は皆脱落し、堀を埋め、道を塞げり、天守台の西南隅崩壊せしを以て、天守閣の西部破壊せられ、肉破れ、骨露はれ、且つ天守閣の東南隅なる附属物、所謂小天守は全壊せしを以て、全く昔時の貌なし」との記載があります。また、犬山の被害については「街上両側の家屋悉く破壊せられ、外町、名栗町の如きは全く崩潰し砂塵の間に奔走して、後片付けを為すものゝみ」「新町、魚屋町、練屋町の如きは最も惨状を極め、敗瓦破梁、街上に堆積し歩行極めて困難なり」などの描写が残されています。

犬山城の濃尾地震からの復興は、地震から約半年後の明治25年3月、犬山町役場の職員ら94名を発起人とする義

援金募集活動に始まります。その後、犬山市長が「発起人委員総代」に就任し体制も充実すると、4,000円余りの寄付が集まり、明治28年4月25日に始まった修復工事は、4年5か月の歳月を経て、明治32年9月23日に修復が完了します。

修復にあたり、個人である成瀬家に譲与され、義援金により工事が進められた犬山城ですが、義援金募集の趣意書には、「犬山城一帯は『衆人ノ』『遊覧スル所』であり、衆人の手で復旧したい」旨がうたわれています。また、修復工事が始まる直前の明治28年2月に成瀬氏により制定された犬山城地管理規定には、「犬山城地は旧城主の所有となったが、事実上犬山町民と旧藩士の中から選出された委員が管理すること」が盛り込まれています。このように、犬山城は地域の住民に支えられていたことによって、募金による修復が可能になり、また、募金を通じて城地の管理運営が地域住民主体で行われることが一層明確になったと言われています。

犬山城は平成16年まで、全国唯一の個人所有の城として有名でしたが、中央防災会議の災害教訓の継承に関する専門調査会の報告書では、それは地域住民による愛着・維持のための努力があったからこそ可能であったと述べられており、財団法人の管理下となった今日、犬山市の手厚い支援と協力があるという体制は、その出発点を濃尾地震の後の復旧事業に求めることができる、と述べられています。



破損した天守閣 (国宝犬山城HPより)



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆犬山城の周辺には…

● 入鹿池

所在地：犬山市池野地区

交通：名鉄犬山線「羽黒」駅 南東 約 5km

入鹿池では、明治 24（1891）年濃尾地震の際に、堤防に幅 6～9cm 程度、深さ 5.5m 程度に達する地割れが出来たとされています。この時には、幸いにも水位が低かったために、破堤には至りませんでした。なお、明治元（1868）年には、連日降り続いた大雨により決壊し、浸水被害が発生しています。



● 徳授寺

所在地：犬山市犬山南古券

交通：名鉄犬山線「犬山」駅 南西 約 600m

徳授寺は、明治 24（1891）年濃尾地震の際に、本堂が倒壊するなどの被害を受けています。寛永和尚がその再建に努めたとされています。



● 観音寺

所在地：扶桑町高雄中郷

交通：名鉄犬山線「木津用水」駅 南 約 700m

観音寺は、明治 24（1891）年濃尾地震の際に大きな被害を受けています。ただ、すぐに修復するまでには至らず、明治 43 年になって庫裡・本堂が再建されています。



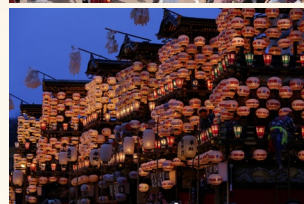
◆詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ 犬山祭

犬山祭は、犬山城の麓に鎮座する針綱神社の祭礼で、毎年 4 月の第 1 土曜日（試楽祭）・日曜日（本楽祭）に行われます（平成 31 年は 4 月 6 日、7 日）。国の重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産にも指定される伝統ある祭です。

祭の主役は愛知県の有形民俗文化財にも指定される 13 輛の車山で、3 層の豪華な造りに江戸時代から伝わるからくり人形が備えられています。巡行するすべての車山でからくり人形が披露されるのは犬山祭だけで、夜になると 365 個もの提灯が灯され、豪華絢爛な巡行となります。（祭礼で巡行する曳山を、犬山祭では「車山」と表記して「やま」と呼んでいます。）

もともとは針綱神社の遷座日である旧暦 8 月 28 日を本楽祭としていましたが、濃尾地震の際に城下が壊滅的な被害を受け、再び全町内が揃って車山を出せるようになった明治 30（1897）年に祭礼日が新暦の 4 月に変更され、幾度かの変更を経て 4 月の第 1 週の開催となっています。



犬山市観光協会 HP より

● ブレイクタイム ●

♪ 犬山城下町

犬山城下町は犬山城の築城に伴い整備された城下町で、現在も江戸時代の町割りが残されており、歴史的な建造物が数多く建ち並んでいます。

城下町にはたくさんのグルメスポットが点在しており、犬山祭に使われる車山をおさめた車山蔵も見られるほか、行楽シーズンには名古屋よしもとの若手芸人が車夫を務めるお笑い人力車も運行します。また、「どんでん館」には、犬山祭で曳かれる車山が 4 輛展示されており、一年中祭を体感できるよう光と音の演出が行われています。



犬山市観光協会 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 平成 31 年 4 月）

